

記入例

移動タンク貯蔵所構造設備明細書

車名及び型式		CB-XXXX 被けん引式 (積載式以外)						
製造事業所名		〇〇自動車株						
危険物	類別	第4類		側面 砕板	当 て 板	材質記号	A5052P-H34	
	品名	第1、2石油類				引張り強さ	235 N/mm <sup>2</sup>	
	化学名	ガソリン・軽油・灯油				板厚	4.2 mm	
	比重	0.75・0.80・0.85				材質記号	A5052P-H34	
タンク	断面形状	だ円形		防 護 砕 板	材 料	引張り強さ	235 N/mm <sup>2</sup>	
	内側寸法	長さ	8,000 mm			閉 装 鎖 置	板 厚	板厚
		幅	2,200 mm	自動閉鎖装置	有・無			
		高さ	1,500 mm	手動閉鎖装置	有・無			
	最大容量	20,000 l		吐出口の位置		左 右 後		
	タンク室の容量	4,000 l		レバーの位置		左 右 後		
諸元	材料	材質記号	A5052P-H34	底弁損傷防止方法				
		引張り強さ	235 N/mm <sup>2</sup>	接地導線	有 (長さ m) ・ 無			
	板厚	胴板	6.1 mm	緊 結 装 置	緊縮金具 (すみ金具)		有 ・ 無	
		鏡板	6.1 mm		U ボ ルト	材質記号		
間仕切板		6.1 mm	引張り強さ			N/mm <sup>2</sup>		
防波板	材料	材質記号	A5052P-H34	箱 材	材 料	直径、本数	mm ・ 本	
		引張り強さ	235 N/mm <sup>2</sup>			材質記号	/	
	板厚	1.2 mm		消 火 器	薬 劑	種類	粉末	
	面積比 $\frac{\text{防波板面積}}{\text{タンク断面積}} \times 100$	60 %				薬劑量	3.5 kg	
タンクの最大常用圧力	20 kPa		個 数	個 数	個	2 個		
作動圧力	20 < P ≤ 24 kPa				可燃性蒸気回収設備	有 ・ 無		
有効吹き出し面積	25 c m <sup>2</sup>		給油設備		有 (航空機・船舶) ・ 無			
	側面 砕 板	材質記号	A5052P-H34	備 考				
引張り強さ		235 N/mm <sup>2</sup>						
板厚		2.9 mm						
取付角度		40°						
接地角度	85°							

備考 この用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とすること。

## [移動タンク貯蔵所構造設備明細書の記入要領]

- 1 「車名及び型式」の欄は、当該タンクを固定又は積載する車両の名称及び当該車両の車検証に記載された型式を記入すること。
- 2 「製造事業所名」の欄は、車両にタンクの擬装を行った事業所の名称を記入すること。
- 3 「危険物」の欄は、当該移動タンク貯蔵所に積載する危険物をすべて記入すること。
- 4 「タンク諸元」、「防波板」、「タンクの最大常用圧力」、「安全装置」、「側面枠」、「防護枠」の欄は、それぞれ該当する項目に必要な事項記入すること。ただし、「材質記号」の欄は、JIS記号を記入すること。
- 5 「閉鎖装置」、「吐出口の位置」、「レバーの位置」、「接地導線」の欄は、それぞれ該当する項目に○をつけること。なお、レバーとは、緊急停止レバーを指すものであること。また、接地導線の欄は、カッコ内にその長さを記入すること。
- 6 「緊結装置」の欄は、積載式移動タンク貯蔵所又は国際輸送用積載式移動タンク貯蔵所（箱枠のある移動タンク貯蔵所）のみ該当する項目を記入すること。ただし、「材質記号」の欄は、JIS記号を記入すること。
- 7 「消火器」の欄は、当該移動タンク貯蔵所に設置した消火器の種類、本数について記入すること。
- 8 「可燃性蒸気回収設備」の欄は、該当する項目に○をつけること。
- 9 「給油設備」の欄は、航空機、又は船舶への給油ができる設備を有するかどうかについて、該当する項目に○をつけること。
- 10 「備考」の欄は、特殊な移動タンク貯蔵所の場合、その概要を記入すること。